

有童稚吾状苦勸一玉墨愁多酒無頼強飲兩三杯稍覺其塊  
釋我前此山親愛醉單席睡穴傷襟懷聊此攬衣見五更霜滿  
堂因念此愁何如昔共作

企畫展

HOUSYU AMENOMORI His Relationships

FRIENDS AND PUPILS

# 雨森芳洲

を取り巻く

交友と子弟

欲來詩興和禪關臺聳接高岬慰顏誦偈老僧年八十仙風道骨脫塵寰

發上關

舉帆黃牯島朝旭上團圓野燒帶風斷巖雲兼靄連客情添日

夜去路陟山小弟妹關心切昏々白晝眠

神室題兩相菴

西風颯々一窳輕秋色新晴忘客情寺裡無僧寒蝶舞定知曾

結菊花開

伯陽少我相知一別寧思再會期况復

見石詞翰妙恰如初見伯陽時

正德甲午仲冬白石源君美題



© 雨森鵬海詩抄

2023. 9.20 水 — 11.27 月

会場 高月観音の里歴史民俗資料館 2階展示室  
開館時間 午前9時~午後5時(ただし、入館は午後4時30分まで)  
休館日 火曜日、祝日の翌日  
入館料 大人300円(団体250円) / 小中学生150円(団体130円)  
主催/長浜市・協力/芳洲会

※団体は20名以上。長浜市・米原市の小・中学生は無料。  
※身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳等をお持ちの方及びその付添いの方1名は無料。(ただし、証明となる手帳等の提示が必要)

# HOUSYU AMENOMORI



© 雨森芳洲肖像

# HOUSYU AMENOMORI

2023. 9.20 水 → 11.27 月

# 雨森芳洲

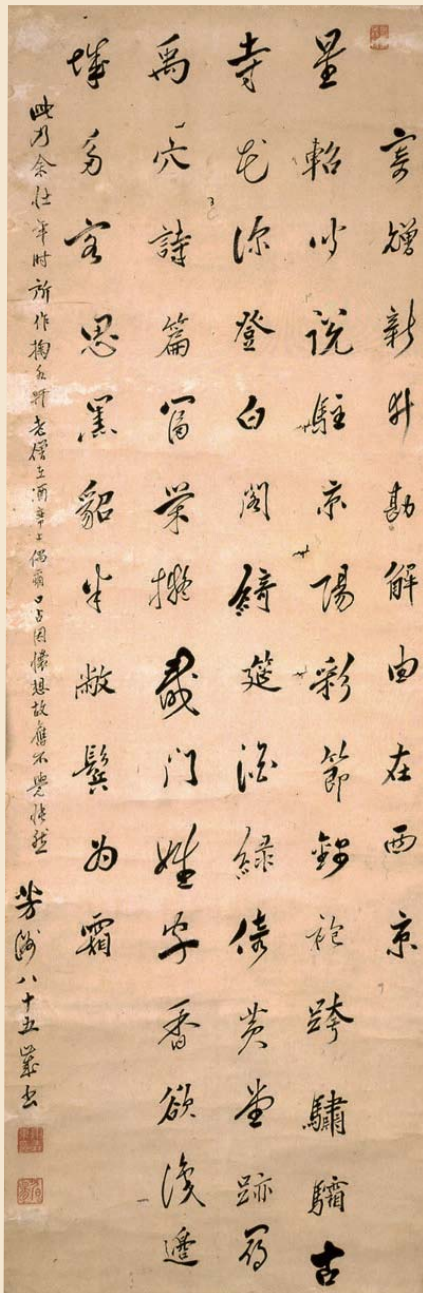
を取り巻く  
友人と子弟

HOUSYU AMENOMORI His Relationships  
FRIENDS AND PUPILS

雨森村(長浜市高月町雨森)出身と伝える雨森芳洲(1668~1755)は、江戸時代中期、対馬藩に仕えた儒学者で、江戸で木下順庵に学び、同門には新井白石などがいました。藩では文教を担当するほか、朝鮮通信使の随行役などを通じて、朝鮮の文人や外交官とも親交を深めました。また、私塾を開いて後進の育成に努め、門下からは対馬藩に仕官し、文教や外交分野で活躍する人物も輩出しました。

「学は、人たることを学ぶゆえなり」。これは芳洲が好んで使った言葉で、彼の思想の根幹をなすものです。「学問」の意義はどう生きるか、何をなすべきかを探究することにあるという意味です。

この企画展では、芳洲と彼を取り巻く人々に焦点を当て、芳洲の思想や生涯を読み解きます。



○七律「寄贈新井勘解由在西京」



○木下順庵肖像 付自賛



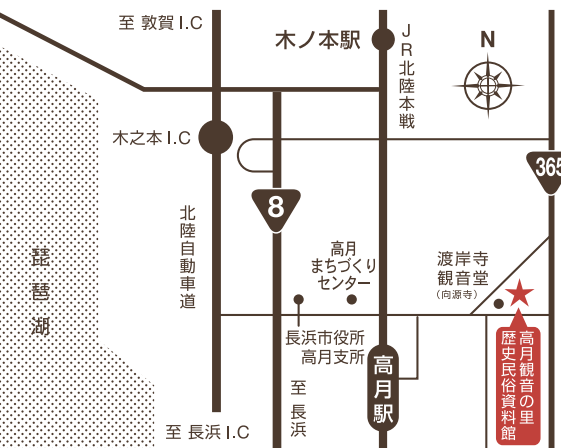
◎李東郭七絶「遊仙詩」



△誠信堂記

展示説明会

日時：令和5年10月21日(土) 午後1時30分から  
会場：高月観音の里歴史民俗資料館 2階展示室  
※展示説明会には入館料が必要です  
(観音の里資料館友の会会員は入館無料)



## ACCESS アクセス

高月観音の里歴史民俗資料館  
TAKATSUKI KANNON NO SATO HISTORICAL FOLK MUSEUM

- 〒529-0233 滋賀県長浜市高月町渡岸寺 299
- TEL 0749-85-2273 (FAX とも)
- Mail : takatsuki-shiryoukan@city.nagahama.lg.jp
- ▷ JR 高月駅から徒歩 8 分
- ▷ 北陸自動車道「木之本 I.C」より 10 分
- ▷ 北陸自動車道「小谷城 S.I.C」より 7 分



△たわれぐさ